

平成 30 年度第 4 回 仙台市放課後子ども総合プラン運営委員会
(議事録)

- 1 日 時 平成 31 年 3 月 14 日 (木) 9 時 30 分～11 時 00 分
- 2 場 所 仙台市役所上杉分庁舎 7 階 子供未来局第一会議室
- 3 出席者 委員定数 10 名 (出席委員 10 名、欠席委員 0 名)
梨本雄太郎委員長、長内美香子副委員長、蘆澤義章委員、遠藤源太郎委員、
小岩孝子委員、佐藤亜矢子委員、佐藤ゆうこ委員、高山典子委員、堀越祥浩委員、
三浦和美委員
- 4 議事録署名委員 高山典子委員、堀越祥浩委員
- 5 議 事 放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携の在り方について

議事要旨

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議事 放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の連携の在り方について
資料 1～3 に基づき、児童クラブ事業推進室長より説明。

<質疑応答>

(梨本委員長)

提案書の別添資料について、調査対象とした団体の方々には提示したのか。

(児童クラブ事業推進室 推進係長)

提示している。

(梨本委員長)

資料 2 の 15 ページ「5 市及び教育委員会の取組み」の「(2) 小学校との連携」について、小学校を訪問して助言等を行うとあるが、こういった取組みはこれまでも行っていたものなのか。また、どの程度の効果があるものなのか。

(生涯学習課 担当)

放課後子ども教室を年 2 回程度は訪問しており、状況の把握が主なねらいではあるが、児童クラブとの連携に関しても、課題、情報共有をこれからしていくという内容である。

(梨本委員長)

具体的には、近隣の児童館でやっていることなどを具体的にアドバイスしているのか。

(生涯学習課 担当)

はい。状況によっては児童館の職員と接触する場面があり、こういうことができたらと児童館の職員

からも聞くことがある。そこを放課後子ども教室のコーディネーターとどうつなげられるのかは、どの教室でも話題として取り上げることができると思う。

(梨本委員長)

今までも定期的に訪問している中で、今回のテーマについても加えるということか。定期的な訪問の中で、うまくいかず行政に助けてほしいなどといった相談あるのか、または、順調に行えている状況なのか。

(生涯学習課 担当)

放課後子ども教室も、開設して間もないところもあれば、開設してかなり経つところもある。それぞれで課題は異なるが、お金の問題やコーディネーターの不足といった問題もある。そういった状況に応じて我々もアドバイスをしている。

(梨本委員長)

このままの書き方でよろしいか。

(三浦委員)

資料2の1ページ「1 本テーマを取り上げた背景」の「(1) はじめに」の5行目だが、「全ての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験や活動を行うことのできる環境の整備が求められています。」とあり、仙台市には科学館や博物館等の社会教育施設でも多くイベントをやっているが、児童館とは、同世代の児童や異世代の方々に関わりながら行っているという点で違う。科学館や博物館では行って体験して帰ってくるという形であるのに対して、児童館でイベントやプログラムを組む際には、より多くの子どもたちやそこでお世話してくれる年代の違う大人と関わるという点に意義がある。「安全安心に過ごし、多様な体験や活動を行う」というよりは、「同世代の児童や異世代の方々との関わりを持ちながら」と入れるとこの事業の特徴がでる。

(小岩委員)

子どもの自主性や自己肯定感などを高めるために自ら企画し、運営して地域の方を呼ぶことも児童館の役割として大きい。大学の先生や学生などと一緒に取り組むこともあり、単に子どもを預かっているだけではない。

(梨本委員長)

学校とも違うところだ。学校は決まったことをやるための学習機会であるのに対して、放課後の活動の場合には、基本的には自分が何をしたいのか、自分にとって今何が必要で、それを自分とまわりの子どもと一緒に考えて決めたり、新しいものを作ったりすることができる。自分から何かをする力が伸びていくことが放課後の活動の独自の意義でもある。今出た意見のように本質を改めて捉えなおすなどの視点も盛り込んでいただきたい。

(佐藤 (亜) 委員)

子どものためのものだということが一つと、安全・安心に過ごし、子どもが暮らしている地域の中で過ごしているという部分を出していけたらと思う。

(梨本委員長)

子どものためだけの意味ではなくて、こういう活動があることで、地域にとっても意味があるかという話か。学校とも家庭とも違う独自の役割があるということか。

(佐藤 (亜) 委員)

はい。ベースとなる考えが、児童館だけではなく子ども教室や地域のいろんな方が関わっているところにあるのでは。

(梨本委員長)

それぞれの活動が何のためにあるのか、原点に立ち返り、それぞれを充実させるために、一緒にしたり、情報交換したりすることが、それぞれの役割を充実させることにつながる。

(小岩委員)

学校が協力してくれることが大きい。子ども教室にしても児童館にしても、特に家庭教育のあり方が課題となっているが、学校教育と社会教育と家庭教育を重なり合わせ、調和させて、子育て・子育て応援を仙台ではやろうとしてきていることを入れ込んだ方が良いと思う。

(梨本委員長)

学校が単に場所を提供するだけではなくて、先生たちが、子どもが放課後をどのように過ごしているのかということに気を配るなど教師や学校の理解の部分を最初に強調しておきたいということはあるか。

(遠藤委員)

「(3) 市の児童クラブ及び子ども教室の現状」か。

(佐藤(亜)委員)

加茂の方など現在活動されている方の話を聞いて思ったのが、連携を意識、無意識に関わらず、すでにできていると感じた。そこで、改めて連携を意識して活動することは、子どもや地域のためによい。新しく何かを考えてやらなければならないということだけではなく、すでに活動する中で連携できている部分もあると思うので、そういう視点で取り組んでもらえたらと思う。

(梨本委員長)

4「両事業の連携の在り方等」の(3)「考えられる連携した取組み」の①から④にあるが、今まで全くやってないことを新しくやろうということではなく、今までやっていて、すぐにでもできることもあれば、少し努力が必要なこともあるなどいろんな段階がある。そういったことが4に記載されていると思う。

(高山委員)

小学校でも、すでに意識しているところなので、そういう土台があるということを前提であげておきたい。

(児童クラブ事業推進室長)

今までいろんなキーワードをいただいたところではあるが、1(1)「はじめに」は、全体の話から絞り込んでいっているところなので、1段落目に唐突感があるとすれば、例えば同世代・異世代との関わりであるなどを加えることで絞り込むことができるのでは。その他については、1(4)「両事業の連携の必要性」やまとめなどで、学校との関わりや児童の自主性を盛り込めるのでは。無意識にできている部分を改めて意識することの大切さについては、4(3)「考えられる連携した取組み」などに入れるとよいか。それぞれの運営している方が見る中で、自分たちはできていないという視点で見ると、すでに無意識にやっているのだということを書き加えることで姿勢が変わってくると思う。

(梨本委員長)

4ページから5ページの「2 委員会における審議経過」は事務的なことなので、このとおりでいい

か。6 ページからの「3 両事業の連携等に関する調査」別添資料にあるものを書き加えた形になっているが、内容としては新しいものではないが、これでよいか。

(三浦委員)

赤字が考察だとしたら、両事業の連携等に関する調査結果と考察ではないか。矢印ではなく考察と入れないと読み取れないのではないか。

(梨本委員長)

8 ページからの「4 両事業の連携の在り方等」について意見はあるか。在り方等の「等」がなくてもいいと思うがいかがか。

(三浦委員)

4 は連携の現状ではないか。項目で「等」は使わない方がいいと思う。

(梨本委員長)

ただ、「(3) 考えられる連携した取組み」はこれからの話である。「4 両事業の連携の在り方等」は「等」を除いて、「4 両事業の連携の在り方」する。「4 (1) 両事業の連携の在り方」は、連携を考える上での基本的な視点のようなもの。全ての地域で一体型ができる訳でもなく、状況に合わせていろんなパターンがあるので、連携を考える上での視点とするのはどうか。

(三浦委員)

～学区(一体型)よりは、一体型(～学区)だと思う。(1)でそういう視点があると述べるわけなので。

(梨本委員長)

①と②で一体型の事例が示されているし、①の中に2つの例があり、連携型は②とかが。

(佐藤(亜)委員)

一体型といっても、校内で行われているものと、隣接で行われているものとで違ってくるのではないか。

(児童クラブ事業推進室長)

出発点が一体型と連携型にこだわるのが難しいというところなので、学区ごとの特徴が優先されるものと単純に並べているもの。

(小岩委員)

実際にやっている側としても、一体型が前にあると強調されるので、やらなければいけないと思ってしまう。

(遠藤委員)

国では一体型を何年間に何箇所つくりなさいとしていて、本テーマを取り上げた背景で、必ずしも一体型にこだわらないとしているので、一体型の言葉ではなく、仙台市らしいやりかたでやっているという意味では、括弧はなくてもいい。現場でも一体型に幅があると思うので、厳密に分けなくてもいいと思う。

(梨本委員長)

「4 (2) 連携に関する参考事例」の次に、それぞれが一体型、連携型と書かずに、3つの事例の中で、住吉台と東宮城野は一体型、加茂は連携型と位置づけることができる文章で説明してはどうか。

(佐藤(亜)委員)

国として求めるものは一体型だが、仙台では連携型が多くなると思う。この順番でよいか。連携型を先にあげるのはいかがでしょうか。

(小岩委員)

連携型を目指しているわけではないのでこのままでよいのではないかと。一体型でできるところもこれから出てくると思う。

(長内委員)

括弧書きであるかは別として、学区がどちらなのかは分かった方がいいと思う。

(堀越委員)

物理的に一体型ができないところもあるので、そのまま括弧書きのままでも、下の文章内に盛り込む形でもよいかと思う。

(梨本委員長)

全体を通して何かあるか。

(蘆澤委員)

P15の「5(3)人材確保」について、下の※に放課後児童支援員について書いてあるが、これは運営するものと捉えてよいか。

(梨本委員)

児童館・児童クラブの職員については資格がある方の配置が必要となる。また、児童館では、放課後児童支援員だけでなく多様な方々との関わりがある。「5(3)人材確保」の文章の一文は長くて分かりにくいので、市と教育委員会それぞれで区切ってはどうか。

(堀越委員)

団体でも人材確保は苦勞している。現在、仙台市で各団体等に求人情報の発信は行っているのか。

(児童クラブ事業推進室推進係長)

仙台市で配信しているメールがある。依頼を受けた場合は市からも求人情報を流せる。また、今年度から、新たな取組みとして保育士の就職説明会のブースに児童館・児童クラブを出させてもらった。少しずつバックアップを進めている状況。

(梨本委員)

人材の確保は全国的に見ても大事な課題となっているので、新しい取組みについても書いてみてはどうか。実施していることや課題についても追記するとよい。

(堀越委員)

冒頭に「異年齢・異世代との関わりや地域」を入れるのであれば、P16の「6 むすび」の最後の段落の「安全・安心に過ごし」も変える必要がある。

(小岩委員)

P15の「5(4)従事者の資質向上」が2行で終わっているが、役に立つ取組みを多く行っているのだから、その内容をもっと盛り込んでもよいのではないかと。

5 その他

次回の日程、場所等については改めて調整して決定。

6 閉会

会議録署名委員

高山典子



会議録署名委員

堀越祥浩

